

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度あま市防災会議
開 催 日 時	平成31年2月21日(木) 午後2時から午後2時45分まで
開 催 場 所	あま市役所本庁舎3階 特別会議室
議 題	あま市地域防災計画(案)について
会 議 資 料	あま市防災会議次第 あま市地域防災計画(案)の修正要旨 あま市地域防災計画(案)新旧対照表 あま市地域防災計画(案)
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	0人
出 席 委 員	村上浩司、佐々木晃、早川安広、松永裕和、石田 [☎] 義、村上照雄、河竹正幸、林正彦、小島裕司、近藤敦、加知智、溝口日出幸、富田悦充、渡邊剛、井村なを子、塚本都、柴田伸彦、阪口嘉成、瀧本雄、木村利男、青木啓
欠 席 委 員	片岡博喜
事 務 局	(総務部) 山内部長、中山次長 (安全安心課) 中山課長、神戸主幹、原野係長、浦田主事、中村防災専門員

会議録（要旨）

- 1 会長あいさつ
- 2 委員の委嘱について
- 3 あま市地域防災計画（案）について

●事務局

あま市地域防災計画（案）の修正要旨を説明

【質疑応答】

○委員

情報の伝達方法について具体的に教えてほしい

●事務局

市民に対して市が発信する防災情報を受信できるように防災情報メールの登録を促している。また、防災訓練等において、テレビを見るなど自ら災害情報を入手してほしいと周知を図っている。災害発生時においては、エリアメールやFM77.3にて情報を伝達している。

○委員

せっかく情報があっても、伝達できなければ意味がない。特に避難する際に高齢者などの避難弱者の方に対する情報の伝達方法は。

●事務局

災害弱者の方にも伝達できる方法を検討していく。

○委員

市の総合防災訓練に参加される方は健常者である。妊産婦などの災害弱者に周知を今後どのように訓練へ取り入れていくのか。

●事務局

避難行動要支援者名簿を、希望する4自主防災会に避難行動要支援者名簿を渡しており、今年度末までにあと2自主防災会にお渡しする予定。お渡しさせていただいた自主防災会において、要支援者の方を連れ添った訓練を実施してもらうよう促している。

○委員

避難行動要支援者名簿に限らず、民生委員の方は日ごろご苦労されている。市民に対してPRできないか。

●事務局

避難行動要支援者名簿を作成する際、民生委員は対象者を個別に訪問されている。市民の方に、この活動をPRしていきたい。また、自主防災会が実施する避難訓練に民生委員が参画いただくように働きかけていく。

○委員

自主防災会が従前と比較して、成熟しているか。あま市として自主防災会の方向性をどう考えているのか。

●事務局

自主防災会の情報交換会において自主防災会に対して訓練を実施していただけるよう毎年促している。この4年間で約1,000人余り参加人数が増加しており、活性化が図られていると認識している。また、資機材を購入した場合に補助金を支給することにより自主防災会を支援しており、今後も支援を進めていく。

○委員

都会化が進みコミュニティが無くなって、町内会も希薄になってきた。福祉コミュニティや地域コミュニティを一括化して防災コミュニティをつくらどうか。

●事務局

自主防災会を防災コミュニティ

現在、自主防災会は区と同じ単位で構成されており、大きな区では30を超える自治会から構成されている。その場合は自主防災会が自治会からの情報を吸い上げることになる。なお、区長と自主防災会長が同一となっているところが大半であるため、自主防災会の情報交換会において継続的に自主防災会長を務めていただく方を固定していただくことで、自主防災会がより活性化できると考えている。

○委員

行政におけるボランティアへの関わり方を教えてほしい

●事務局

防災におけるボランティアとは、自ら被災地に赴き、復旧や復興活動を行う方を指しており、その方々には災害復旧時に社会福祉協議会が設置するボランティアセンターにおいて被災地のニーズをマッチングして活動していただくことになる。市では今後も社会福祉協議会と協力しボランティアコーディネーターを養成していきたい。

●会長

職員の行動を私が指示させていただく。限られた伝達方法ですが、各団体の方々にお願いすることになる。様々な団体の方々にお願いし、それぞれの連絡網を活用することもあるため、ご協力いただきたい。

○委員

災害発生時における各地域の連絡方法について教えてほしい

●事務局

自主防災会が管轄地域の被災情報を収集し市役所に報告していただく方法と、在宅避難など避難所生活をしない方においても、避難所登録用紙を避難所に提出していただき、避難所ごとに物資の必要数などを市役所に報告していただく方法がある。

○委員

市の防災訓練を学校経由で中学生の参加の依頼をしているが、今後は中学生が弱者を支援していけるよう自主防災会の組織内に組み込んで活動するべきではないか。

●事務局

災害発生時に力を発揮できる年代と考えている。なるべく地域の訓練に参加してもらえるよう仕組みを考えていく。

●会長

実際に一部の自主防災会にて小中学生が訓練に参加しているところがある。今後も自主防災会の訓練に小中学生が参加していただけるよう促していきたい。

○委員

小中学生にあま市民として自覚してもらうとともに、地域住民と一体となり、自分で考えることが大切と考える。

○委員

自衛水防組織とは何か。

●事務局

自衛水防組織とは、近年全国各地で河川の洪水処理能力を超える豪雨災害が頻発している中、会社などの企業が自らを守るための組織のこと。

○委員

世界測地系とは何か

●事務局

世界測地系とは、日本国内でのみ使用されてきた日本測地系に対し、人工衛星から高度に計測された地球全体の正確な大きさや形状を基に、国際的に定められた基準となる測地系のこと。

【計画の修正について】

委員全員の賛成により、原案のとおり決定

4 その他

【質疑応答】

○委員

医療救護活動について、海部医師会と協定は締結しているが、具体的にどこに設置するのか、薬品をどうするのか、誰が招集するのかなど詳細が決定していない。

●事務局

健康推進課が窓口となって事務を進めている。健康推進課は医療救護活動マニュアルを作成しており、作成案を安全安心課に見せていただいた。健康推進課としては、医療救護所の設置場所を美和保健センターにて検討している。3月中に医師会へ計画案を提示させていただきたい。

○委員

災害発生時の遺体発見現場で、津島警察署が検視する際、身元識別において県歯科医師会に応援を求めることになっているが、地元の海部歯科医師会の方がいいのでは

●津島警察署

大規模に発災した際は県医師会に人を割り振りしてもらうことになるため、原則、県捜査本部から県医師会を通じて要請する。